

登録コード	SGH06900	開講年度	2026				
授業題目	博物館展示論				担当教員	福島 正樹	
英文授業名	Museum Exhibition Theory				副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限	対象学年	2～3年
講義室	理学部第3講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	博物館における展示の意義、展示が実現されるまでの資料調査から展示の完成までの諸課程、出来上がった展示を多くの人びとに理解してもらうための様々な解説のありかたなどを学ぶ。担当教員が学芸員の実務経験を活かして講義を行います。						
(5)授業のキーワード							
(6)授業計画	1 博物館の展示（序説） 展示とは何か コミュニケーションとしての展示 2 展示と展示論の歴史 古代から近現代 博物館の誕生 3 文化財・博物館資料・展示（1）前近代における「資料」の発見 4 文化財・博物館資料・展示（2）近代における展示と文化財 5 博物館の展示と社会・政治 歴史研究と歴史教育及び社会教育 6 資料の収集から展示まで 調査研究と展示 博物館の準備と展示 7 展示の諸類型 伝達形式、展示場所、展示期間、形態、資料の扱い方、展示意図、動線、配列など 8 展示案の制作（調査、構想、設計） 資料などの調査研究の成果をもとに、それが展示になるまでを考える 9 展示の制作（実施設計から実施へ） 設計した内容をもとに、現実の展示にするまでを考える（展示資料リスト、配置図、図録、チラシ、輸送など） 10 展示の技術 展示室の環境（温湿度、照明、展示ケース） パネル 複製 模型 環境復原など 11 展示の効果・評価 研究が展示に展示が研究に 社会教育と展示 社会福祉と展示 12 展示の解説（常設展・人による解説・ギャラリートーク） 13 展示の解説（企画展・人による解説・ギャラリートーク） 14 利用者主体の博物館展示 15 まとめ 授業の最後の15分間にアンケートを実施する。						
(7)成績評価の方法	通常授業の出席と小テスト、レポート等により評価を行う。						
(8)成績評価の基準	通常講義への出席や小テストの結果にレポートを課して評価する。レポートについての評価基準は次のとおり。(1) 問題の設定が適切であり、(2) その問題の背景を説明できており、(3) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(1) から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。評価は100点満点のうち、レポート・小テストで50点、出欠で50点。						
(9)事前事後学習の内容	大学における講義は、受講者の事前事後の学習を前提として行われる。教科書として指示された文献、講義の中で指示された参考文献について、事前事後学習として参照すること。						
(10)履修上の注意	初回授業の冒頭で詳しくガイダンスする。						
(11)質問、相談への対応	講義終了後に直接質問してください。学務へのメモも可（次の講義で回答します） また、メールでの質問も可。アドレスは、fukusima@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	基本的に講義の中で紹介する（プリント配布など）						
【参考書】	・水藤真『博物館学を学ぶ - 入門からプロフェッショナルへ』（山川出版社 2007年） ・真家生和ほか編著『大学生のための博物館学芸員入門』（技報堂出版 2014年） ・君塚仁彦・名児耶明『現代に生きる博物館』（有斐閣ブックス 2012年）						